



Back to

0 4  
1 9 8 5  
2 0 0 6Amami  
Oshima

## 奄美大島の 大動脈 〈国道58号〉

急カーブ・急勾配の連続する  
険しい峠道が  
利便性の高い、安心・安全な  
エコロードに生まれ変わった。

国道58号は、鹿児島市を起点とし、種子島、奄美大島を経て沖縄県那覇市に至る国道です。奄美大島では、北部の奄美市笠利町から名瀬を経由し、南部の瀬戸内町古仁屋にかけて島を縦断し、生活・物流を支える重要な路線となっています。

かつて、奄美大島の険しい地形を貫くこの幹線道路は、その途中にいくつもの急峻な峠を有し、島の交通は大変不便なもので、当時、シマ(集落)とシマの交流は、峠道の連続する陸路を避け、小舟を使って海上経由で行われていたほどでした。明治の初め頃、古仁屋から名瀬までは「名瀬十八里」と言われ、移動は一日がかりで、道中、女性やお年寄りなどは西仲間に一泊して翌朝坂を越えたと伝えられています。

なかでも奄美市住用町の三太郎峠(住用町東仲間〜住用町西仲間)の旧道は、約13キロメートルにわたるつづら折りの峠道で、「犬も酔っ」と言われた難所。昭和59年に着工され、平成元年に開通した三太郎トンネルの開通は、島民の長年の悲願でした。

また、島有数の難所といわれた和瀬峠(わせ)は、狭く曲がりくねった道のうえ、大雨や台風の際は、がけ崩れのため



- ①奄美市住用町城海岸と和瀬峠
- ②和瀬バイパスと旧国道58号
- ③④昭和30年頃の三太郎峠を越えるボンネットバス
- ⑤平成13年和瀬バイパス開通式
- ⑥開通した新和瀬トンネル(平成13年撮影)

通行止めとなることもしばしばでした。そこで県は、名瀬朝戸と住用町城を3本のトンネルと9つの橋で結ぶ和瀬バイパスの整備に平成4年から着手。高速道路を除くと当時県内最長となる新和瀬トンネル(全長2435m)の完成により、平成13年に開通しました。バイパス周辺は、アマミノクロウサギなどの稀少動植物が多数生息する地域であったため、トンネルや橋りょうを多く取り入れて、土工部(土砂を扱う土木工部分)を最小限に抑えたほか、小動物がはい出せる側溝や動物専用の横断道を設けるなど、自然環境への影響を最小限に抑える「エコロード」として整備が進められました。事業着手から9年5カ月をかけて完成した和瀬バイパスの整備により、峠越え109カ所のカーブを11カ所にまで改善しました。開通式には、県や市町村関係者のほか周辺住民も大勢出席し、テープカット後には地元小学校の吹奏楽部や式典出席者たちがパレードを行い、大動脈の完成を盛大に祝いました。

このように国道58号は、昭和60年の本茶バイパス開通を皮切りに、平成17年までに11のトンネルやバイパスが整備され、かつてまる1日を要した名瀬〜古仁屋間の移動時間は、およそ1時間にまで短縮されました。また、災害に強い道路となったことで、緊急時に必要な救助活動・医療活動をすばやく行えるようになり、島の利便性は大きく向上しました。

平成15年度からは、最後に残る難所である網野子峠の改善に向け、奄美市住用町役勝と瀬戸内町勝浦を結ぶ網野子バイパスの整備に着手しており、現在、網野子トンネル(全長4243m)の工事を進めています。

国道58号は、奄美大島の南北を結ぶ大動脈として地域経済発展の礎となり、安心・安全で快適な暮らしの実現を目指して今後も整備が進められる予定です。